② 4月18日 【支持体の準備】

生の和紙にドーサ引き ×2回

【小下図チェック】

参考資料と下図スケッチの確認と修正。

下図とのバランスを見てパネルサイズ、和紙の確認。

構図、最終イメージの色、明暗について確認し、必要購入絵具を指示します。

- ドーサの役目とは
和紙の強度を上げる、にじみを防ぐ、膠をはじく
ドーサ専用の刷毛を用意
ドーサ作り（膠1、水7、明礬1さじ）
- 顔彩または水干による基本の彩色方法
平塗り、片ぼかし、流し塗り、たらし込み、彫り塗り、退塗り、ため塗り、にじみ、による彩色。

③ 5月2日 【通常制作・下図修正】

（前回のやり残し分を行う、遅れた方の確認。

作業の復習も兼ねる）

水張り、胡粉作り、具引きまで

- 胡粉とは
- 本紙パネル張り
- 胡粉作り
- 地塗り（具引き） 盛り上げ胡粉

④ 5月16日 【通常制作・下図完成】

念紙作り、転写、骨描き、隈取り

- 日本画に於ける陰影表現とは
念紙（水干を刷り込む）
墨、硯が必要。小下図転写、骨描き、墨、具墨による隈取り、地隈作業

⑤ 6月6日 技法講座①

【塗りと筆について】

通常制作の中で背景を彩色し、描き起こし等を行います。

- 専門用具とその特性について
日本画制作の為の筆選びを考えます。資料を配布。
- 岩絵具による彩色方法について
しばき塗り、平塗り、流し塗りなどを行います。

⑥ 6月20日 技法講座②

【箔について】（別途500円程度）

- 専門用具の特性
色紙、またはスケッチブックに彩色し、砂子箔見本、箔はさみ、ろう引き

⑦ 7月4日 技法講座③

【揉み紙】（別途500円程度）

- 様々な表現方法
雲肌麻紙を1層べた塗りした状態の和紙を配布
水干を溶いて彩色。揉み紙を作ります。

⑧ 7月18日 技法講座④

【裏打ち】（別途500円程度）

- 裏打ちの方法
しょうふのりを作り、裏打ち専用の和紙で裏打ちの一般的なやり方を学びます。
「地獄打ち」と「迎打ち」を行います。

⑨ 8月1日 技法講座⑤

【絹本について】

- 絵絹見本

⑩ 8月29日 通常制作

⑪ 9月5日 通常制作

⑫ 9月19日 通常制作（完成）